

発掘新聞

8月18日号

発掘速報展 2012

開催中不定期発行

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

【告知】

収蔵品 オンデマンド、土日祝日 10:00～16:00 当館第4展示室にて好評実施中

村山健治氏収集資料展

第1展示室で開催中

豊前市塔田琵琶田遺跡

難航する発掘調査

密集する古墳時代後期の竪穴住居跡、試される調査担当者の力量



遺構検出で格闘する塔田琵琶田遺跡調査担当の小澤技術主査

＝当館撮影

当館が現在発掘調査を行っている豊前市塔田琵琶田遺跡第4次調査で、非常に密集する竪穴住居跡などの遺構の検出作業に調査担当者が四苦八苦している。

この遺跡付近は「黒土」という地名があり、もともとの土、地山が黒色であることが特徴で、竪穴住居跡などが埋まった土も黒色であることから、もともと極めて難しい発掘調査をこれまで行ってきた。今回の調査範囲では、密集する遺構のた

め、地山がほとんどない状態と、地山の「黒」と遺構の「黒」のダブルパンチに調査担当者が格闘する毎日が続く。

そこで頼りとなるのが調査担当者である当館小澤技術主査の腕である。ほんの細かい土の色や硬さと経験から、遺構のラインを引き、それを繋ぐことで竪穴住居を少しずつ発見していく。さすが！この成果については、来年度の発掘速報展で紹介する予定。是非ご期待下さい！（大庭孝夫記者）

九州大学大学院卒業後の四月より、小澤技術主査と一緒に塔田琵琶田遺跡の調査を担当しています。小さいころより憧れた、発掘調査の仕事に対して、大変さと楽しさを同時に感じる日々を送っています。今後はガッツあふれる小澤技術主査を見習いながら、早く一人前になり、一人で発掘現場をできるようにすることが現在の目標です。



細石朋希臨時調査員

今号の「人」
発掘調査にあこがれて
当館文化財調査室



遺構検出作業を行う発掘作業員
＝当館撮影